

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800138		
法人名	有限会社 ケアサービス九州		
事業所名	グループホーム ふぁみりー伊川		
所在地	福岡県飯塚市伊川字原ノ前1番1		
自己評価作成日	平成23年1月10日	評価結果確定日	平成23年3月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出は、集団ではなく要望を聞き個別に行うようにしている。当然のことですが週3回の食材の買い物も一緒に行き、毎日の献立も入居者の意見を十分に反映させている。味付けや盛り付けなどをしていただく事で、ご自分の役割や役に立っているのだという気持ちになられているのか日々笑顔が耐えません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・故郷訪問や思い出の場所、縁のある場所等、本人、家族から情報収集を行いながら、個別の外出支援を行っており、県外にまで出掛けることもある。また、温泉や魚釣り、外食、嗜好品の買い物等、それぞれの方にとっての笑顔や満足感を得られる場所を探しながら、個別～少人数での外出を支援している。・記録様式の工夫、充実に向けた取り組みを行っており、SOAP形式を取り入れながら、入居者の言葉等の主観的情報を大切に記録し、理念に基づいて行われる支援の方法や手段へと導こうとしている。家族への開示も積極的に行われており、情報を整理し、共有していくことで信頼関係の構築にもつながっている。・医療機関や訪問看護との充実した連携体制づくりに努め、日々の健康管理はもとより、今後想定される終末期ケアへの対応について、職員の意思統一に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・運営方針をミーティングで唱和している。文章が長く暗記しづらいが、“地域の方と共に”“安全”“安心”“満足”を常に心がけている。介護記録にも理念が反映されるようにしている。	地域密着型サービスとしての役割が示された、事業所独自の基本理念・運営方針が作成されている。ミーティングにおいて唱和し、また介護記録には、理念に基づいたかかわりを記載する欄が設けられており、日々の様々な支援の過程において、立ち返る場所(理念)としての位置付けが行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩の際、日常的に挨拶をかわし、なじみの関係を築いている。又、餅つきや夏祭りなどの行事にも案内状にて参加あり。	地域との交流しやすい環境も視野に入れながら、公民館前の当地で開設されている。自治会に加入し、2ヶ月に1回発行される広報誌を回覧板にも載せており、認知症や事業所の理解を育んでいる。近隣の幼稚園とは相互に訪問する交流があり、高校介護福祉課生徒の実習受け入れ等も行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域のかたの参加あり。その際、認知症についての勉強会を取り入れている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議への参加が、固定の職員の為に、他の職員には会議録とミーティングでの報告を行っている。ご家族様の意見要望をケアの向上に活かしている。	土曜日に開催されている運営推進会議には、入居者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員等の参加により、2ヶ月に1回、定期開催されている。事業所からの状況や活動の報告、情報発信等が行われ、意見交換が行われている。家族意見を収集する機会としても活用されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、利用者様のサービスについての相談を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。行政窓口へのパンフレット設置や、運営やサービス提供に関する相談や情報共有に努めている。これまでに、地域包括支援センターとの連携により、小規模多機能サービスを活用して自宅復帰に取り組んだ事例もある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除についてマニュアルに沿って勉強会を行っている。玄関や裏口の施錠は基本的には行っていない。	日中は玄関の施錠を行わず、さりげなく見守り、寄り添うことを大切にしている。リビングからウッドデッキ、庭へと続く掃き出しの窓も、特別な制限は行われていない。車椅子の使用方法や、言葉による抑制等にも意識を持ちながら、職員間の共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連についての勉強会を行い、全員に周知徹底している。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の学習の中で、成年後見制度についての知識はあるが、実際にはその制度を利用するに至っている入居者様が居られない為に、職員との話し合いの機会はない。	これまでに、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用した事例はないが、行政の主催する研修に参加し、必要時には活用に向けた支援が行えるよう、体制の整備に努めている。パンフレットを玄関ホールに設置し、家族懇談会にて制度に関する説明を行っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に必ず行うようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、家族懇談会での意見や要望は議事録にて皆で共有し、ケアプランに反映させている。	利用者アンケートを実施している。介護計画の期間にあわせて、3ヶ月に1回、家族懇談会を実施しており、意見や要望を積極的に収集し、職員間で共有している。日々の記録も積極的に開示しており、家族との信頼関係の構築に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートで、意見や提案を聞き利用者様の安全と職員の働きやすさについては反映されている事もある。	毎月のミーティングには代表者も参加しており、直接、意見や提案を収集している。また、3ヶ月ごとに行われるリーダー会議の中でも検討され、フィードバックするようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課をおこない各人の努力や実績は運営者に報告している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークで求人募集を行っている。面接の際は運営者が「介護に対する思い」を必ず尋ねるようにしており、出勤初日より、新人研修カリキュラムに沿ってオリエンテーションを行っている。職員は住所地の福祉行事への参加も積極的に行っている。	ハローワークでの求人募集を行っており、今年度は、育児休業からの復帰も実現している。内部研修実施体制の確立や外部研修への参加を積極的に促し、勤務調整等のサポートを行っている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	系列のふぁみりー菟田と合同で人権学習を実施している。ミーティングでも身体拘束や虐待防止法関連についての勉強会も行っている。	人権研修や身体拘束、高齢者虐待防止、プライバシー、認知症ケア等の研修を通じて、職員の意識を高めている。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	段階に応じて法人外での研修に参加させると 共に、年2回自己研鑽の為の研修への自 主参加の機会を設けた。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	事業所内で交換研修を行っており、研修報 告も提出している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学や入居相談は随時行っており、ご 家族様やご本人様が安心安全満足して生 活していただけるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	入居相談や見学の時点で、ご家族様とご本 人様の要望・意見を伺うと共に、入居後も連 絡・相談を密に行える体性になっている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様の要望を伺い、ご本人 様の今求めているサービスが事業所でなさ れない時には、きちんと説明させて頂いてい る。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の買い物に近くのスーパーと一緒に 行き食材選びから料理の味付け、食器洗いや 掃除も一緒に行っている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご本人様にとって家族の絆が一番だと考 える。無理なく共に支えていける方向で対応を 検討している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染の方の居られる施設への面会や、入 居前に利用されていたデイ、馴染みの理髪 店へ行って頂いている。	故郷訪問や住みなれた場所を訪ねる等の個 別支援が行われている。幼なじみの方の消 息を尋ねて情報を収集し、途切れた関係性 を結びなおした経緯もあった。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合う利用者様同士リビングのソファで 一緒にテレビを見られている。気の合わない 方やコミュニケーションが困難な利用者様 には職員が間に入り、孤立しないような配慮を 心がけている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅復帰された利用者様が、夏祭りや餅つ ぎ前など非定期的に電話連絡されている。 その際にはご自身の近況報告をされてい る。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日ごろの会話の中で利用者様の思いを聴き 把握している。困難な方にはミーティングで 意見交換し本人本位で考えている。	各担当者により、センター方式を活用したアセス メントが行われている。日常の様々な場面におい て、入居者の言葉や表情等から思いや願いをくみ 取るよう努めている。介護記録には、各職員が検 討・分析した内容及び理念に基づいたケアについ て記載する欄があり、情報の整理や課題を明確に 捉えていく取り組みが行われている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	契約時に生活歴や性格、大切にされている 事や習慣などを伺い情報の共有に努めてい る。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人一人のADLや精神状態の観察は記録 に残し皆で共有している。更にミーティ ング時に意見交換し現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月のミーティングで個別にカンファレンス を行い検討し、ご家族様の要望も取り入れ プランの見直し決定を行っている。	家族との懇談会を3ヶ月に1回開催し、意見や要 望を確認している。介護記録の工夫、充実に向け た取り組みが行われており、本人の言葉を大切に 記録し、また、支援の経緯が共有しやすい様式と なっている。毎月のミーティングにおける個別カン ファレンスや、3ヶ月ごとのモニタリングを、介護計 画の見直しにつなげている。	目標をより具体的に設定することで、共有 も図りやすく、達成状況も明確になると思 われます。各担当者による本人の言葉を 大切にした記録を、介護計画作成にも反 映させていくことを期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有出来るよう連絡ノート の利用や、個人介護記録の様式を変更し、 利用者様の様子が分かりやすいようにし、 職員の思いの記入により質の良い関わり方 に繋がる様に改善した。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な疾病による受診や、入居前よりのリハビリ、ご家族様の要望によりマッサージの依頼など行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の幼稚園児との年2回の交流を行っている。夏祭りや餅つきには地域の方の参加もあり共に行事を楽しまれている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望するかかりつけ医に受診し、嘱託医の週1回の往診や、病変時には連絡し指示受けを行い、その都度適切な支援を行っている。	入居者、家族の希望するかかりつけ医への受診を支援している。また協力医による往診体制の確立、及び訪問看護師との連携も充実している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護師による健康チェックが行われ、報告・相談し24時間連絡できる体制となっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先を頻回に訪ね主治医や看護師よりの情報収集を行っている。密にご家族様と連絡をとり、意向を伺い早期に退院できるように支援している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行い、その都度の状態に応じて懇談会を行い終末期のケアについての指針を見直すようになってきている。	利用に際しての事前指定書、及び看取りに関する指針を整備し、重度化した場合や終末期に向けた対応について、意向確認や方針の共有を行っている。状態の変化に応じて、その時点での意向を確認し、指定書の見直しを行っている。訪問看護事業所との連携により、看取り期の観察項目についての研修が行われており、職員間の意識向上を図っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の事故発生マニュアルに沿って勉強会を行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っているが、地域との協力体制までは築けていない。	年2回、避難訓練を実施しており、内1回は消防署の指導のもと行われている。運営推進会議でも話し合いが行われており、地域との連携を模索している。	避難訓練への参加や、緊急連絡先として、地域の方への協力をお願いしている。今後も継続した働きかけにより、相互の連携体制が構築されていくことを期待します。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を行い周知している。また、否定する言葉掛けはしないように常に心がけている。	基本理念として、人としての尊厳と心のふれあいを大切に支援していくことを掲げており、理念の共有、実践に向けた取り組みが確認できる。個性を大切に、個々の時間の流れや、大切にしていることに寄り添えるよう、日々取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に表情や行動を注意深く観察し、日頃より入居者の言葉をゆっくり傾聴するように心がけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活パターンに合わせ、個人のペースに合わせて支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着る物を選んで頂いている。着衣されている服を褒めるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえから味付け、食後の下膳や後片付けをして頂いている。食事は同じテーブルで摂っている。	スーパーでの買い物から始まり、野菜の下ごしらえや味付け等を共に行っており、時には一品完成して頂く場合もある。冷蔵庫の中を見て相談しながらメニューを決めたり、食べたいものを聴きながら献立に取り入れている。定期的に管理栄養士によるアドバイスを受けている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はチェック表にて把握している。食事形態は個別に異なっている。嗜好や習慣により、主食の変更も行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回歯科往診で診ていただき、毎食後の口腔ケア時に磨き残しがないかの確認をさせて頂いている。洗面所に限らず入居者様が望まれる場所で行っていただいている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でパターンを把握しトイレにて排泄されるように支援している。常に紙オムツは夜間のみでの使用が望ましいという事を考え、日中は快適に過ごして頂けるよう支援することを心がけている。	現状は自立している方も多く、状況の把握や個別のサインを見逃さないようにしながら、さりげない支援に努めている。夜間は睡眠とのバランス等を検討し、ニーズにあわせた個別の対応を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫や、冷たい牛乳により排便に繋がっている。ヤクルトや青汁を毎日摂られている方もおられる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、入居者様からの希望があればいつでも入浴できる体制にしている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況に応じた柔軟な対応を行っている。入浴剤を使用したり、柚子湯を楽しむ等の工夫を行い、ゆっくりと入浴してもらっている。時には温泉に出掛け、職員と共に入浴を楽しむこともある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調に応じ休憩時間を設けるようにしている。加湿器や空気清浄機を利用されている利用者様もおられる。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスのないようにチェック表にて3重の確認を行っている。症状の変化は常に確認し、変化があれば早急に嘱託医に連絡を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や外出、自家菜園や植木の剪定など利用者様の出来る事を一緒に「役に立っている」という喜びがもてるように支援を行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者様の状態にもよるが、勤務体系を考慮しコスモスや紅葉見物、以前住まわれていた所への外出やドライブなど、一定の利用者様に偏らぬよう配慮している。</p>	<p>故郷訪問や縁のある場所等、本人、家族からの情報を収集しながら、個別の外出支援が行われており、県外まで出掛けることもある。また、温泉や魚釣り、嗜好品の買い物等、それぞれの方にとっての笑顔や満足感を得られる場所を探しながら、個別～少人数での外出を支援している。畑の手入れや周辺の散策等、希望や状況に応じて、日常的に戸外に出る機会がある。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かっている金銭とは別に、自身で所持されておられ、買い物の際は支払いもされている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族様との連絡に携帯電話をもたれている利用者様もられる。また、電話の希望があればいつでも電話をかけられ安心されるよう支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は清潔を心がけ温度・湿度の管理を行っている。季節の花を装飾し行事の写真を掲示している。季節感の工夫を行う配慮をしている。</p>	<p>天井の高い共用空間は、明るく開放的であり、リビングにはソファが置かれ、ウッドデッキ越しに庭の畑や周辺の様子を眺めることができる。玄関ホールにあるベンチは、様々な場面で活用され、一息つく場所となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にこたつと、3箇所ソファを設置しており、日中は気の合う方と思い思いにお茶を飲みくつろいでおられる。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッド以外ご本人様の使い慣れた家具や馴染みの物を置かれているし、ご家族様の写真も飾られている。</p>	<p>テーブルや椅子、冷蔵庫が持ち込まれている居室もあり、暮らしの場所としての生活感がある。これまでの習慣や状況に応じて、本人本位の環境作りが行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内はバリアフリーで手すりの設置により安全かつ自立支援に努めている。利用者様の関係により食事は決まった席になっており、混乱無く自信で慣れた席に座られている。</p>		